

**第79回国民体育大会・第24回全国障害者スポーツ大会
滋賀県開催準備委員会
第1回全国障害者スポーツ大会専門委員会 議事録（概要）**

1 日時

平成28年(2016年)2月9日(火) 10:00～12:05

2 場所

滋賀県大津合同庁舎7階 7-A会議室

3 出席委員（五十音順、敬称略）

伊勢坊 美喜、今井 義尚、奥村 昭、小倉 繁昌、小野 ゆかり、川並 正幸、
河西 正博、近藤 寛子、高木 正二郎、中島 秀夫、中西 久美子、永浜 明子、
西山 克哉、原 陽一、平岡 行雄、藤本 俊治、森 由利子（委員総数18名うち1名欠席）
※オブザーバー：障害福祉課（市川課長他2名）、スポーツ健康課（門参事他1名）
※事務局：木村事務局長他4名

4 配付資料

別添のとおり

5 会議概要

(1) 委員長・副委員長の選出

※委員の互選で、永浜委員を委員長に、原委員を副委員長に選出。

(2) 会議の公開等について

※事務局より説明。原案どおり「会議公開方針」「傍聴要領」を承認。

(3) 説明・報告事項

※事務局より、「国民体育大会・全国障害者スポーツ大会の概要」「開催準備スケジュール」「全国障害者スポーツ大会専門委員会の主な審議事項」について説明。

※障害福祉課より、「滋賀県における障害者スポーツ施策」「第24回全国障害者スポーツ大会開催に向けた有識者会議」について説明および報告。

※「滋賀県競技力向上対策本部 障害者スポーツ専門委員会」について報告。

(4) 審議事項

※事務局より、「全国障害者スポーツ大会専門委員会の審議スケジュール」について説明。原案どおり承認。また、「全国障害者スポーツ大会開催に向けた課題および国体との一体的な取組」について意見聴取。（質疑等は次のとおり）

【質疑】

(委員)

専門委員会の分掌、いわゆる守備範囲を掴みかねる。滋賀県競技力向上対策本部の障害者スポーツ専門委員会と繋がる内容も見受けられる。当専門委員会の目的は何か。

(事務局)

障害者スポーツの普及や指導者の養成等は「滋賀県競技力向上対策本部」の専門委員会で議論いただくことになるが、関連もあり明確な仕分けは出来ない。当面は滋賀で開催する全国障害者スポーツ大会をどのような大会にするのかについて、色々なアイデアを出していただき、実現可能性を探りながら整理させていただきたい。

(委員)

近年、国体も全国障害者スポーツ大会も影が薄い。その突破口の1つとしてメディア戦略がある。去年の和歌山大会でも周知されていなかった。もう少しメディア戦略を加えてみんなにわかるようにアピールをしていけばいいのではないか。
(意見)

(委員)

知的障害の軽い方は陸上競技や水泳、あるいは団体競技に参画しているが、重い障害の方はなかなかスポーツに関わっていない。支援者がいないと参画できない状況がある。重い知的障害のある人をどのようにスポーツに関わらせていくかが大変大きな課題である。そうしないとすそ野が広がらない。また、特別支援学校の先生がコーチをされていることが大変多い。一般の指導者を養成するうえで、障害者に対する理解をどう深めていくかがひとつの課題である。(意見)

(委員)

聴覚障害者はデフリンピックがあり、パラリンピックに参加が出来ない。全国障害者スポーツ大会と参加対象が違う点も課題である。また、国体や全国障害者スポーツ大会が県民に周知されていない。和歌山国体のボート競技は滋賀で開催されていたが開催を知らなかった。見に行けず非常に残念だった。

さらに、全国障害者スポーツ大会に出場しても聴覚障害者は手話が出来る人との交流で終わってしまい、手話が出来ない人との交流がないのも課題である。競技だけで終わってしまうのではなく、幅広く交流できる場をつくる必要がある。そのためにも県民に理解いただき、手話が出来る人をもっと増やしてほしい。

また、ボランティア養成をはじめとする様々な取組が大会期間中だけで終わるのではなく、大会後の共生社会の実現につながる取組にすることが大切だと思う。
(意見)

(委員)

開催基本方針に「害」の文字が2か所出てきているが、「がい」と平仮名にできないか。佐賀県の参考資料には「障がい」と平仮名を使っている。変更できるのであればお願いしたい。

(事務局)

全国障害者スポーツ大会の主催団体の1つである日本障がい者スポーツ協会も「がい」と平仮名を使っている。ただ、スポーツ基本法や県の組織は漢字の「害」を使っていることから準備委員会で作る方針は漢字の「害」を使っている。以前から指摘されているが、県の方針として平仮名を使う状況になっていない。ご理解いただきたい。

(障害福祉課)

幅広く県行政全体に関わっており、様々な議論がある。引き続き議論を深めていきたい。

(委員)

滋賀らしい大会を考えるうえで、全国障害者スポーツ大会は「競技性」と「レクリエーション性」の両方を考えないといけない。本大会は「競技性」が必要であるし、開催の準備過程においては「レクリエーション性」、つまり楽しむ機会をつくり盛り上げていくことが非常に重要ではないかと思う。

また、国体の総合開会式に全国障害者スポーツ大会の一部の競技の出場選手が参加できるようなことは出来ないか。運営上可能なのか考えてみてはどうか。開会式は大きなセレモニーであり、メディアにも取り上げられるので一体的開催をアピールできるのではないか。

さらに、サッカーワールドカップなどで選手が子どもと手をつないで入場してくるシーンがある。子どもたちに夢を与えるし、見ていてもいいと感じる。全国障害者スポーツ大会でも未来の子どもたちに夢を与えられるような運営が出来ないか検討していけないか。(意見)

(5) その他

※事務局より、委員の任期について説明。

(以上)